

慶応三年四月十七日より慶応三年四月十九日まで

P8310675right

十七日子 晴

但馬守、今朝兵庫へ出立、詰所へ立寄、亜(アメリカ)館行、本日出立に付告別に行、老岐守殿初役に

ても同断同館へ御出に付、本行寺へ到り江図両州へ御用談いたし、亜公使為残市岡新田へ出張第十二時同公使着す、茶菓等を設け袂(たもと)を分つ、猶詰所引取、英人奈良行大仏殿参向道筋の義等に付、徒目京都より早追同様急ぎ下坂せし由、本十一時頃松野(孫)乗□にて来り

談判筋有し、右附添藤五郎明朝出立より御□達し遣す、アストン別老人より但馬守宛書□

式通出す一は和泉国図の書、一は南都行望みの事也

十八日丑 晴

昨本達により藤五郎来る巨細申含め遣す、奈良行護衛増人並パークス一行増護衛五拾人

P8310675left

急に差立の儀京都表より御用状等松野(孫)より達し来る、夫々手配申付る、森山(多)南都附添出立届け

立よる、猶徒々申含遣す、前書増護衛の儀に付、鈴木(猪)打合に来る、同断に付塚原(完)

鈴木(猪)同道

□た来る、老岐守殿書取にて即済上京の様被仰渡分、御所より御書付式通添え、且山下(令)より□残□て

托し状有し、御同人御旅館へ早速参上御趣也、相伺第四時帰舎、図書近江等へ其段報告し支配向へも達し、栄助源十郎召連の積り、但馬守へも池野(山城)書状、英人昨出せし二通の書状

此度御所の御書付写等□弥一へ徒々申含め届け方托す、大輔へ招き金方遣す十九日寅 晴

(上京)夜第一時半十五ミニユート過、早追にて出立(侍奴一人を随う也)着第十一時五ミニユート過□地到着先達□

旅亭也、届済登城然処、昨日午下摂政殿へ被面 成今午前被遊還御(\*)候趣にて

\*「還御(かんぎよ)、天皇、将軍、公卿が出先から帰ること」

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。